

目次

校本コンテムツスムンヂ	国字本 ローマ字本	3
ローマ字本序		8
卷第Ⅰ		9
卷第Ⅱ		105
卷第Ⅲ		161
卷第Ⅳ		369
対訳コンテムツスムンヂ	ラテン語・日本語	...	453
第Ⅰ巻		456
第Ⅱ巻		542
第Ⅲ巻		592
第Ⅳ巻		784

(国) あり ○これ 文 御をしへをあぢハひ ○ 文
 (R) 事は・ — Christo のご内証に値遇し— 奉らぬ故也。⑥ Christo の

(国) 御 ———— たく—— はば——
 (R) み言葉を味はひ深く、達して分別し奉らんと思ふに於ては、わが身の

(国) しんだい・ 文 ○ り・
 (R) 行儀——を悉く Christo に等しくし奉らんと歎くべし。⑦ 謙る心なきに

(国) ・ 御 らば—— 御ないせう
 (R) よって Tridade のご内証を背き奉るに於ては、その Trindade ・ の高き御

(国) 事 に ○ ————
 (R) 理を論じてもなんの益ぞ?⑧まことに媚びたる言葉は人を善人にも、正

(国) き」1オ おこなひ ㊦ の御ないせ
 (R) しき 人にもなさず、ただ善の行儀——こそ人を Deus ————

(国) う あはせ・ 也・ ○
 (R) 一に親しませ奉るものなれ。⑨ Contrição といふ後悔の理を知るよりも、

(国) れ ———— たもつ ビイビ
 (R) その Contrição をこ / 4 ころに覚ゆる事は尚好ましき事也。⑩ Biblia

(国) リア うへ ・
 (R) ——といふ貴き経文の文句を悉くそらんじ、もろもろの学匠の語を皆し

(国) つくし ㊦ 御 ガラサ—— ———— に
 (R) り——ても、Deus のご大切と、そのご合力なくんば、これ皆なんの

(国) ぞ—— ○ ㊦ 御 事 ・
 (R) 益かあらん? ⑪ Deus ご一体を大切に思ひ、仕へ奉る・よりほかは皆実

(国) みな・ ○ ———— ・ 至らんと
 (R) もなき事のなかの実もなき事也。⑫この世を厭ひて、天の御国に——

(国) しかる——— はつるたから
 (R) 志す事最上の智恵也。⑬かくの如くある時んば、過ぎ去る福德を尋ね求

(国) ・ ○
 (R) め、それに頼みをかくる事は実もなき事也。⑭位、誉れを望み歎き、身

(国) ・ なり のぞみをしたひ ふかく
 (R) を高ぶる事も又実もなき事也。⑮骨肉の欲するに任せ・以後甚だ・迷

(国) ○
 (R) 惑すべき事を望むは、実もなき事也。⑯行儀の正しからん事をば歎か

(国) ながいき ○
 (R) ずして、長命——を望むは、実もなき事也。⑰現在の事をのみ専らとし

(国) の をせぬ ハ ○——— はつる・
 (R) て、/ 5 未来を覚悟せざる事・実もなき事也。⑱さしも早く過ぎ去る事

(国) を大切におもひはつる事なき をいそぎもとめぬも・
 (R) に愛着して——永き——— 楽しみのある所へ急がざる事、実もなき事也。

(国) ————
 (R) ⑲ OCVLVS non vidit, nec auris audiuit, nec in cor hominis

(国) ————
 (R) ascendit, quae praeparauit Deusijs, qui diligunt illum. 1.

(国) ———— ○人の に——— ふ——
 (R) Cor. 2. ————^{まなこ}眼は見る事に飽かず、耳は聞く事を以て達せずといへる尊